

友内川自然再生への取り組み

～友内川の豊かな自然環境を守るために～



友内川下流部



友内橋から下流の友内川



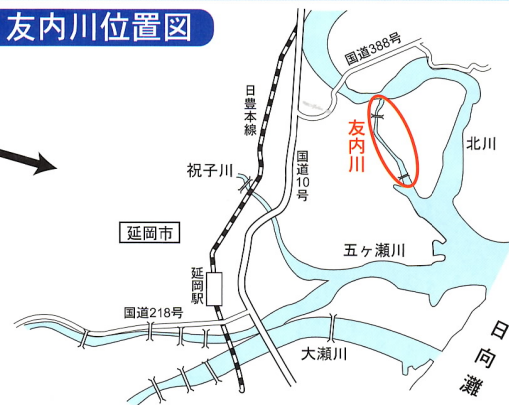
友内川中流部（写真右側はハマボウ）

～友内川～

友内川は、五ヶ瀬川水系の支川北川の河口付近で分派し、再び北川に合流する河川（河川延長約1.7km）で、平成13年10月に「環境省 日本の重要湿地500（湿地名：五ヶ瀬川、祝子（ほうり）川、北川の感潮域）」に選ばれるなど、広大な干潟やヨシ原、河畔林が広がり、貴重な動植物が生息、生育し、良好な自然環境が形成されています。

そのような友内川の豊かな自然環境を保全、再生するため、平成14年度より地域住民、漁協、学識経験者、延岡市等の関係機関とともに国土交通省で取り組んでいる「友内川自然再生事業」について紹介します。

友内川位置図



とも うち がわ し ぜん さい せい 友内川自然再生への取り組み(友内川自然再生事業)

① 友内川自然再生事業の目標

友内川には、高知県と宮崎県にそのほとんどが分布している**絶滅危惧種のアカメ(魚類)**が生息しています。また、**アカメの稚魚の生息に不可欠なコアマモ(水草)**が広く分布しています。

しかし、生活排水等による水質悪化により、アカメの生息に不可欠なコアマモが減少したことから、アカメ、コアマモをはじめとした多様な動植物の保全を目的として、水質浄化、魚付き林でもある河畔林の保全再生、環境調査等を実施しています。



アカメ
環境省：絶滅危惧ⅠB類
宮崎県：絶滅危惧Ⅱ類
指定希少野生動植物
(宮崎県野生動植物の保護に関する条例)

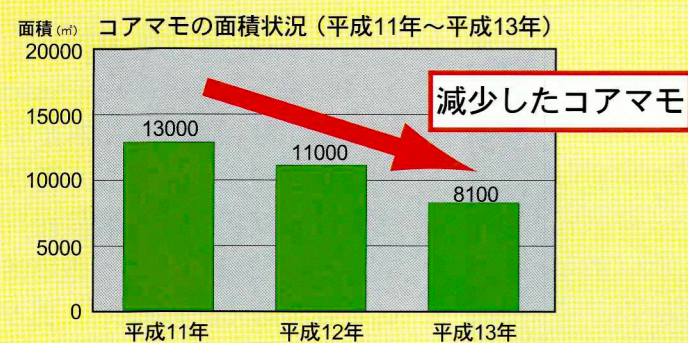
コアマモ
環境省：指定無し
宮崎県：準絶滅危惧

コアマモ内に生息するアカメの稚魚

アカメは主に沿岸部に生息し、稚魚は河口域のコアマモ群落中で生活します。体長は1mを越す場合もあります。宮崎ではアカメを「マルカ」と呼びます。

② 友内川が抱えていた課題

◆アカメの生息場であるコアマモの減少
生活排水等により、友内川では水質が悪化していました。そのため、水質が悪化したときに生育しにくいコアマモが減少し、アカメ等の稚魚が生息する場所が失われてしまうことが心配されました。



◆河畔林の消失

かつては友内川の河岸に広がっていた河畔林(魚付き林)は、これまでの出水に伴う倒伏等により減少し、魚の生息場及びエサ場が失われつつありました。



樹木(クスノキ)の根が露出
河畔林が減少

③ 友内川自然再生事業の概要

平成21年度までに、水質浄化施設、管理用通路(観察路)、河畔林の保全・再生等の整備が完了しています。現在、環境調査を実施しています。

- 1. 水質浄化施設**
コアマモ等の動植物を保全するため、水質浄化施設を設置しています。その結果、コアマモの面積は、水質が悪化する前の状態にほぼ回復しています。(平成22年現在)
- 2. 管理用通路(観察路)整備**
河川管理や環境調査等のための管理用通路(観察路)を整備しています。コアマモや野鳥、干潟に生息する生物を観察することもできます。
- 3. 河畔林(魚付き林)の保全・再生**
露出した根に土などを覆う「河畔林の保全」、盛土と植樹による「河畔林の再生」を実施しています。
- 4. 環境調査**
水質測定やコアマモの分布状況等の調査を実施しています。

水質測定やコアマモの分布状況等の調査を実施しています。



友内川にはこんな生き物がいます

アカメ (アカメ科)



環境省：絶滅危惧ⅠB類 宮崎県：絶滅危惧Ⅱ類
大きさ 100～150cm程度 (成魚)
生息場所 沿岸、河口の汽水域など
産卵期 6～8月頃

目が赤く、体は銀白色です。ほとんどが高知県と宮崎県の沿岸部や河口部に分布しています。稚魚はコアマモの中に生息しており、エサ場であると同時に隠れ場所にもなっています。

※宮崎県ではアカメのことを「マルカ」と呼びます。

コアマモ (アマモ科)



環境省：指定無し 宮崎県：準絶滅危惧
大きさ 10～40cm程度
生息場所 河口の汽水域など
産卵期 5～10月頃

水深が浅い河口の汽水域などに生育しており、五ヶ瀬川水系では、特に友内川に広く分布し、5月から10月にかけて繁茂します。

ハマボウ (アオイ科)



ハマボウ(夏)



ハマボウ(冬)

環境省：指定無し 宮崎県：準絶滅危惧
大きさ 3m程度
生息場所 干潟、河口に近い川沿いなど
花期 7～8月頃

本州（関東以西）、四国、九州などに生育する落葉性の低木です。7～8月頃に5cm程度の黄色い花を咲かせます。生育地の減少などで個体数が減少しています。

ハマナツメ (クロウメドキ科)



ハマナツメ(夏)



ハマナツメ(冬)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 宮崎県：絶滅危惧Ⅱ類
大きさ 3m程度
生息場所 干潟、河口に近い川沿いなど
花期 7～9月頃

本州（東海以西）、四国、九州などに生育する落葉性の低木です。7～9月頃に淡緑色の5mm程度の花を咲かせます。生育地の減少などで個体数が減少しています。

シオマネキ (スナガニ科)



環境省：絶滅危惧Ⅱ類 宮崎県：絶滅危惧ⅠB類
大きさ 3cm程度 (甲羅の大きさ)
生息場所 河口の干潟

干潟のヨシ原などに巣穴を掘って生活しています。オスは片方のハサミが大きくなります。片方の小さなハサミで砂や泥をつまんで口に入れ、砂や泥に含まれる栄養分をとります。生息域が干潟と限られており、生息環境の変化により個体数が減少しています。

ハマガニ (ベンケイガニ科)



環境省：指定無し 宮崎県：準絶滅危惧
大きさ 5cm程度 (甲羅の大きさ)
生息場所 河口の干潟

干潟のヨシ原などに直径10cm程度、深さ50cm程度の大きな巣穴を掘って生活しています。潮が引くと水辺で活動しますが夜行性が強く昼間はあまりみられません。雑食で、ヨシなどの植物を好んで食べます。

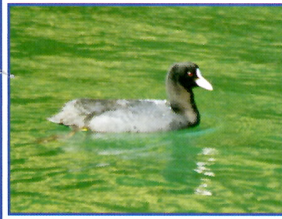
ヒドリガモ (カモ科)



環境省：指定無し 宮崎県：指定無し
大きさ 40～50cm程度
生息場所 河川、湖沼、池など
鳴き声 【オス】ビューーなど、笛のような声で鳴く 【メス】グワーグワーと鳴く

日本には冬鳥として訪れ越冬します。主に植物食で、水面に浮かんだ葉などを食べたり、泳ぎながら水草などを食べます。

オオバン (クイナ科)



環境省：指定無し 宮崎県：指定無し
大きさ 30～40cm程度
生息場所 河川、湖沼、池など
鳴き声 クルルッ。キュルルッなどと鳴く

一年を通じて見られます。主に植物食で、泳ぎながら水草などを食べますが、魚や虫なども食べます。

友内川の自然環境を守るための取り組み

友内川のより良い自然環境を守り育むために、様々な取り組みが行われています。

友内川のマルカをそだてる会

地域住民・NPO・学識者・漁協・延岡市等からなる協議会（友内川のマルカをそだてる会）を発足し、全体の構想や実施内容、維持管理などについて議論し事業を実施するとともに、ハマボウ植樹や清掃活動にも取り組んでいます。



マルカをそだてる会の協議会の状況



マルカをそだてる会によるハマボウ植樹

地域と連携した維持管理

地域住民、NPO、友内川のマルカをそだてる会、国土交通省等が参加して、管理用通路の草刈や清掃を実施しています。

また、水質浄化施設の維持管理やハマボウの植樹等にご協力頂いております。



地域住民、NPO等による清掃状況



地域住民、NPO等による清掃状況



水質浄化施設の
竹炭の入れ替え状況



水質浄化施設の
竹炭の入れ替え状況

自然観察会

自然環境のすばらしさを体験することを目的として、NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワークが主催となり、講師を招いて地域住民の参加により自然観察会が実施されています。観察会での調査結果は、友内川の自然環境の保全のために役立てていきます。



植物観察会



野鳥観察会

平成21年度までに整備工事が完了し、現在、地域住民、NPO、友内川のマルカをそだてる会と連携して友内川の維持管理や環境調査（野鳥観察会や植物観察会など）を実施しています。今後も友内川の自然環境を保全するために、地域住民、NPO、友内川のマルカをそだてる会等の皆様にご協力頂きながら、地域と連携した維持管理や環境調査等を実施していきたいと考えております。ご協力よろしくお願いします。

このパンフレットについてのお問い合わせは

国土交通省 九州地方整備局 延岡河川国道事務所 調査第一課

TEL (0982) 31-1155 (代表)

〒882-0803 延岡市大貫町1丁目2889

◆HPアドレス <http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/>

◆メールアドレス nobeoka@qsr.mlit.go.jp